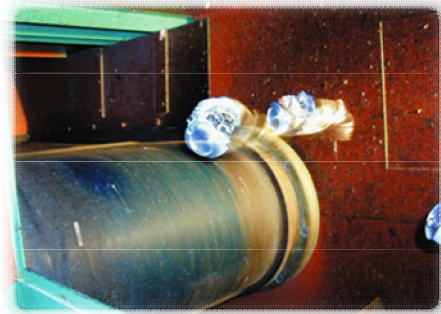


## 6-3 不燃ごみ処理計画

### 1. 現状

- ① 施設の状況等  
処理能力：66t/5h  
(破碎：32t/5h、ガラス：17t/5h、缶17t/5h)  
缶・ビン類をはじめ、可燃・不燃粗大ごみを破碎し、スチール・アルミの金属類と可燃物に自動選別します。
- ② ごみ量  
ごみ量は年間約2,670tで、近年は減少傾向です。特に缶類の減少が顕著です。
- ③ 経費  
年間約2億の経費がかかっており、運転管理や選別作業は民間に委託しています。機械整備工事は長期計画に基づいて実施しています。



### 2. 課題

- ① 設備の経常的な修繕や交換が必要です。
- ② 搬入量は減少していますが、ごみの種類が不均衡で、効率的な処理が必要です。
- ③ 選別作業や、高速回転機械類操作などの運転に伴う危機管理の徹底が必要です。
- ④ ごみ質や構造の多様化により、選別作業や不適物除去などの人的作業が増えます。
- ⑤ 鉄・アルミを中心に搬入量が激減しており、資源売却益は厳しくなります。

### 3. 計画

#### (ア) 事業

- ① 経常的修繕や交換の計画化と効率化を図ります。
- ② 構成市町村と連携を強化し、ごみ減量と処理困難物の搬入防止を徹底します。
- ③ 受託会社を含めた危機管理対策を実施します。

(イ) 施設整備計画

不燃ごみ処理施設については、抜本的な更新である長寿命化は必要ないので、従来からの効率的な更新を行い、年度バランスを考慮して計画しました。

単位：百万円

年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	
一般経費 (人件費除く)	委託料など (經常分)	122	126	120	127	119	126	119	126	119	126	119	126	119	
工事費	通常整備費 (經常分)	81	85	87	95	91	86	88	90	96	90	92	93	88	
	工事内訳	供給設備関連 (コンベア類)	35	38	18	31	12	57	34	55	23	29	33	23	35
		破碎設備関連 (高速回転/低速二軸)	28	22	40	56	71	21	40	22	61	23	43	23	41
		共通設備関連 (選別/圧縮/電気/計装/他)	18	25	29	8	8	8	14	13	12	38	16	47	12
備品購入 (新規分)	電動フォークリフト更新		4												
	ショベルローダ更新					5					5				
	アームロール車両更新						20								
	アームロール車用コンテナ更新				2			2				2			
	蛍光管破碎機更新			5											
	フロン回収機更新					2									
不燃ごみ処理計画 合計		203	215	212	224	217	232	209	216	215	221	213	219	207	

※不燃ごみは、鉄、アルミ等の有価金属ごみが資源回収により搬入されなくなったことから激減しておりますが、その他のごみは減少要因がなく搬入量は今後微減となり、委託料等の一般経費及び通常整備費はほとんど一定となります。